

図書館日和 No.05



平成30年10月発行

皆さんこんにちは。『図書館日和』10月号です。
ベストやセーターが手放せない時期となってきました。みなさん風邪をひかないよう、
体調管理に気をつけていきましょう。

図書委員会からのお知らせ

◆「古典の日」について

「古典の日」は源氏物語千年紀を記念して平成20年11月1日に京都で宣言されました。
図書館では11月1日から100枚限りの「古典の日」特製しおりを配ります。

◆読書週間について

10月27日～11月9日まで。本に親しみ様々な本を深く読む、そんな週間です。
ホッと一息、本と一息。みなさんも是非、図書館で本を借りて読みましょう。

◆新しい『県広生の99冊』が配付されました。自分の一冊を加えて「私の100冊」にして いきましょう！

本紹介

今月のテーマは、11月1日の古典の日に合わせて「古典」です。
図書委員が本気でお勧めする本ばかりなので、ぜひ読んでみてください。

21世紀によむ日本の古典15 奥の細道

著：上野洋三 出版社：株式会社ポプラ社 918 二

松尾芭蕉の『奥の細道』。誰もが一度はその名前を聞いたことがあるでしょう。でも、実際に読んだことがある、という人は少ないのではないのでしょうか。

この本は、芭蕉と弟子の曾良の長い旅の物語です。現代語に訳してあるため、古典が苦手だという人も読みやすいです。何百年も前の人々が何を考え、何を想い、暮らしていたのか——それを、知りたいと思いませんか？

わたしの旅の話をききたいって。
よろしい。話してしんぜよう。



21世紀によむ日本の古典7 今昔物語

著：服藤早苗 出版社：株式会社ポプラ社 918 二

今は昔——すべてはこの言葉から始まります。この言葉は、昔の物語を今聞いて、今を生きるための知恵にしよう、というものです。全27の説話すべての最後には、教訓のようなメッセージが隠れています。

非常に分かりやすく現代語訳されており、説明も加えられているため、簡単に古典に親しむことができます。

本が苦手な人でも楽しく読める本です。是非、古典の世界から「今」を生きる力を学んでください。

日本の古典を読む16 太平記
校訂・訳：長谷川端 出版社：小学館 918 ニ

『太平記』は、南北朝の争乱期のうち、約40年の歴史を描いた壮大な軍記物語です。鎌倉時代末期、後醍醐天皇の即位から鎌倉幕府の滅亡、建武の新政、室町幕府の成立へと書き進められ、3代将軍・足利義満の時代の初期まで及びます。長い混乱の時代を書き通した『太平記』は、「南北朝、室町幕府の最大の文学遺産」と言われています。また、楠正成という新しい英雄がこの物語を通して生まれたという点でも、この作品が文学的に評価される要因の一つです。

日本史で学んだことと結びつけながら読んでみると楽しいかもしれません。



日本の古典を読む13 平家物語
校訂・訳：市古貞次 出版社：小学館 918 ニ

この物語は、平家一家の繁栄から没落までを描いており、主人公である平清盛の死を境に二つに大別されます。

前半は、清盛を中心に平家の台頭と栄華について書かれています。後半部分では、木曾義仲の入京、平家一家の都落ちへと物語は展開されていきます。

皆さんもよく知っている、源義経や頼朝などが登場し、社会で学んだ保元の乱に平治の乱も登場します。社会で学んだことを復習するつもりで、この本を読んでみてください。

平家物語を読む（岩波ジュニア新書）
著者：永積安明 出版社：岩波書店 931 ナ

『平家物語』。中・高校生ならば必ず一度は聞いたことがある、古典の不朽の名作です。この作品は、平家の繁栄と滅亡を歌ったものです。

今回紹介する新書は、10人の登場人物を取り上げ、原文に触れながら平家物語の全体像と文学としての豊かさを伝えています。『平家物語』を知らない人でも一から知ることができるのです。誰もが知る平清盛から木曾義仲まで取り上げられています。

みなさん、この本を読んで広島に縁のある平家についてもっと知ってみませんか？

少しでもこの本に興味がある人はぜひ、図書館で借りて読んでみましょう。

編集後記



肌寒い、というより、セーターも手放せない季節となってきました。

2学期も半分を越し、本格的な冬が迫っています。外に出たくなくなるこの季節にこそ、あたたかい家で本を読む、というのはいかがでしょうか。忙しい冬の合間、ホッと一息つくために本を読む。読書週間も始まっているので、みなさん、図書館でどんどん本を借りてくださいね。